

## 【別紙1】平成18年度 第17回 省エネ大賞表彰対象機器システム一覧

### (1) 経済産業大臣賞(2件)

機器・システム名	申請者
高性能、高機能真空断熱材「Vacua」シリーズ U-Vacua(Ver. IV) Chip-Vacua	松下冷機株式会社
業務用 冷凍・空調機器 「スーパーフレックスモジュールチラー RUA-TBPシリーズ」	東芝キャリア空調システムズ株式会社 東京電力株式会社 東洋キャリア工業株式会社

### (2) 資源エネルギー庁長官賞(6件)

機器・システム名	申請者
液晶用輝度上昇フィルム 「BEFⅡシリーズ、BEFⅢシリーズ、RBEFシリーズ、WAVEシリーズ、DBEFシリーズ、ESRシリーズ」全25機種	住友スリーエム株式会社
ドラム式洗濯乾燥機「ヒートポンプななめドラム」 NA-VR1100 NA-VR1100R	松下電器産業株式会社
飲料自動販売機「ノンフロン・ヒートポンプ飲料自動販売機」 NS-0630EVHP 他全9機種	松下冷機株式会社
蛍光灯照明器具「センサ機能付照明器具セルコンシリーズ おまかせセルコン」 FSS42560A PX9 他全15機種	松下電工株式会社
超低燃費&クリーンなハイブリッド乗用車「CIVIC HYBRID」 ホンダ・DAA-FD3	本田技研工業株式会社
新ターボエンジンと高効率CVTの低燃費軽乗用車「ソニカ」 CBA-L405S CBA-L415S	ダイハツ工業株式会社

### (3) 省エネルギーセンター会長賞(12件)

機器・システム名	申請者
電球形蛍光灯「バルックボール プレミア」 EFA15EL/10H EFA15EN/10H EFA15ED/10H	松下電器産業株式会社 照明社
高効率家庭用ガス風呂給湯器「潜熱回収型壁貫通型風呂給湯器」 KG-S816RFWH-RA 他全12機種	株式会社 ガスター 東京ガス株式会社
自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯機 三菱エコキュート「ダイヤホット」 SRT-HP37W1 他全36機種	三菱電機株式会社 群馬製作所
スプリット形ルームエアコン 「気流ロボット&フィルターお掃除ロボット搭載ルームエアコン」CS-X227Aシリーズ	松下電器産業株式会社
家庭用冷凍冷蔵庫「たっぷりビッグ すみずみクール」 R-SF54WM 他全6機種	日立アプライアンス株式会社
デジタルフルカラー複写機「imaggio MP C1500シリーズ」 MP C1500H/MP C1500SP/MP C1500SPF	株式会社 リコー
カラーレーザープリンター 「DocuPrint C3050」	富士ゼロックス株式会社 富士ゼロックスプリンティングシステムズ株式会社
超高効率空冷スクウェアヒートポンプチラー「ハイエフヒーポン」 HEP150AW HEP150CW	株式会社 神戸製鋼所 中部電力株式会社 東京電力株式会社 関西電力株式会社
「アベイラス高輝度蓄光式避難誘導板」 AS-E24 AS-S24 AS-F24 AS-M24	株式会社 アベイラス
冷凍機(コンデンシングユニット)「屋外設置インバータ冷凍機」 TAM130AM-SV TAM200AM-SV TAM350AM-SV	東芝キャリア株式会社
三重効用高効率ガス吸収冷温水機 ΣTTG-185H 他全16機種	川重冷熱工業株式会社
70%石油外資源タイヤ 「ENASAVE ES801」	ダンロップファルケンタイヤ株式会社 住友ゴム工業株式会社

【別紙2】平成18年度(第17回)省エネ大賞 表彰テーマの概要

Table with 4 columns: 表彰名, 機器・システム名, 申請者, 申請者による概要説明. Contains 25 rows of award details for various energy-saving products and systems.

注: 背景色が緑は「家庭用部門」、青は「業務用部門」、黄は「自動車部門」の応募。

## 【別紙3】 審査委員長講評

## 平成 18 年度 省エネ大賞を審査して

省エネ大賞 審査委員長  
日本工業大学大学院 教授  
松野 建一

「省エネ大賞」表彰事業は、平成2年の第1回から数えて今回で17回目となり、累計の応募件数は1,066件、受賞件数は286件に上っている。家電品販売店やマスコミでの広告などで「省エネ大賞」受賞マークを目にすることも多くなり、トップランナーの性能表示制度とともに、消費者の方々に環境に優しい製品を選んで頂く目安としてよく知られるようになってきたことは、審査を担当する一人として喜ばしい。

「省エネ大賞」の目的は、審査が終了する年末時点までに発売された同種の機器・資材・システムの中で、最も省エネルギー性の高いトップランナーを表彰し、製造事業者の取り組みを称えとともに、多くの消費者、事業者に省エネ性能の高い機器・システムを使って頂くための指針を示すことである。今回は、家庭用、業務用、自動車の3部門を合せて69件の応募を頂き、学識経験者、専門家など24名の審査委員により審査した。まず全ての応募案件について、省エネルギー性、省資源性、独創性、経済性、環境保全性、安全性の総合的観点から入念な書面審査を行い、特に優れた案件についてはヒアリングさらに現地・現物調査を行った。最終審査委員会では、これらの結果に基づいて厳正な総合評価を行い、経済産業大臣賞2件、資源エネルギー庁長官賞6件、省エネルギーセンター会長賞12件、合計20件の受賞候補を選考することができた。

経済産業大臣賞に選ばれた2件は、世界最高レベルの熱伝導率:0.0012W/mK以下を達成し、冷蔵庫、ジャーポット、防寒着、床暖房などに広く応用される高性能・高機能真空断熱材と、3台~12台のモジュール連結方式と群制御方式により、大容量化と従来機種比で31%の省エネルギーを実現した業務用冷凍・空調機器である。また、資源エネルギー庁長官賞には、優れた資材として用途が広い液晶ディスプレイ用輝度上昇フィルム、初のヒートポンプ方式であるドラム式洗濯乾燥機、熱冷両用の特徴を活かして省エネルギーを図った飲料自動販売機、昼光を生かすセンサーと制御を組み込んだ蛍光灯照明器具、最新のハイブリッド乗用車、CVT搭載のターボエンジン軽乗用車の6件が選ばれた。

今回の特色は、消費者・事業者が購入する機器・システムに加えて、各種の機器や建築物等に組み込まれて大きな省エネ効果を発揮する資材や要素部品の製品も積極的に取上げたことである。省エネルギーセンター会長賞を含む20件の受賞機器・システムは、いずれも独創的な省エネ技術への取り組みと不断の努力が結実したものであり、当該企業の関係者各位に深く敬意を表し、祝意を申し上げたい。選ばれた製品が今回の表彰を契機に今後広く使われ、省エネルギー効果を発揮するとともに、生活の質の向上に貢献することを心より期待している。

京都議定書の数値目標を達成する時期が近づき、また新年早々に欧州連合(EU)ではポスト京都議定書(2013年以降)の新目標が掲げられた。地球的規模の温暖化問題に貢献するには、従来にも増して広い分野で様々な省エネルギー技術を開発し、多様な省エネ製品の普及を図って行かなければならない。今後、各方面で新規性に富む技術開発がさらに進み、次回以降の「省エネ大賞」には今回以上に広い分野から数多くの応募があることを期待している。